

農林水産生物ゲノム情報統合データベースの構築（継続）

【700（707）百万円】

事業のポイント

農林水産生物のゲノム情報を統合し、幅広い利用者が利用しやすいデータベースを構築します。

（効率的な利活用システムを構築）

- ・ ゲノム情報量は過去7年で約17倍に増加。（2000年 登録件数：535万件、塩基数46億 → 2007年11月 登録件数：7763万件、塩基数：815億）
- ・ 増加するゲノム情報を育種家や民間の開発者が品種改良等に利用しやすい形で提供。

政策目標

農林水産生物ゲノム情報の統合データベースを平成22年度までに整備し、研究者や育種家等が育種、品種改良等に使いやすいデータベース情報を提供

<内容>

1. 農林水産生物ゲノム情報統合データベースの整備

イネ、カイコ、ブタ等農林水産生物のゲノムや遺伝子の情報等を統合したデータベースを整備し、大学や民間企業等の研究者に提供します。

2. 他生物ゲノム情報等とのリンクによる高精度情報検索システムの構築

他生物のゲノム情報等を持つデータベース機関であるGenbank（米国）、EMBL（欧州）等とリンクし、高精度に遺伝子情報の類似性検索等を行うことができるシステムを構築します。

<実施主体> 民間団体等

<実施期間> 平成18年度～平成22年度

[担当課：農林水産技術会議事務局研究推進課 03-3502-7436(直通)]